

# 不動岡高校吹奏楽部

## 第4回

### 現役生と卒業生によるスプリングコンサート

日時 平成二十九年 三月十一日 (土)

開場 時開演

会場 パストラルかぞ 大ホール

入場料 無料

客員指揮 中島亨 (不動岡高校吹奏楽部 第2代 指導者)

東育雄 (元東京シティフィルハーモニー管弦楽団)

トランペット奏者・不動岡高校吹奏楽部 第3代 指導者)

## ご挨拶

## スプリングコンサート実行委員会

本日は、お忙しい中、不動岡高校吹奏楽部、第4回現役生と卒業生によるスプリングコンサートにお越しいただきまして、誠にありがとうございます。当コンサートの実行委員一同、厚くお礼申し上げます。

この合同演奏会も、今回で4回目を迎え、昨年からの準備を始め、皆様のおかげで本日ここに演奏会を実施する運びとなりました。この演奏会を成功させるためにメンバー一同、精一杯練習に取り組んで参りましたが、卒業生は社会人が多く、なかなか直前までメンバーがそろいませんでした。そのため、何かと準備不足、練習不足の面が否めず、至らない部分もあるとは存じますが、ご容赦いただければ幸いです。

この演奏会実施にあたりまして、本校吹奏楽部を長年にわたり指導していただきました、東育雄先生と今回は第2代指導者、中島亨先生にもお願いしたところ、快くタクトを取っていただきました。また、OBの皆様からの心温まるご協賛のおかげで、現役生には金銭的な負担を全くかけることなく、このコンサートを企画、実施することができました。改めて、このコンサートの実現のためにご尽力いただいた、皆様、関係各位に、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

末筆になりましたが、本日、ここにご参会の皆様の、ご健勝とご多幸を祈念いたしまして、実行委員会からのご挨拶とさせていただきます。

それでは、初春の午後のひと時を、吹奏楽の調べで、ごゆっくりお過ごしください。

## 協賛者名簿

今回の演奏会に当たり、ご協賛いただいた皆様のお名前をご紹介します

(敬称略、代順)

5代 浅岡 直子	6代 鈴木 実	6代 坪井 和雄	7代 島村 浄
8代 関根 雅彦	代 細井 賢	8代 伊田 展代	8代 平澤 香
9代 小野田幸夫	9代 高野 昌克	9代 関口 昭	10代 島村富士子
10代 石塚 孝詩	10代 石塚 正弘	10代 船川 喜正	11代 贄田 光枝
11代 丸山 研也	11代 鎮守 街子	11代 山下 弘之	11代 植竹 公子
14代 高橋 覚	16代 佐藤 厚子	20代 福島 崇義	20代 中曽根 淳
24代 伊藤 淳子	25代 塩原 壮	47代 飯島 春美	

平成29年 3月10日現在

ご協賛いただいた皆様、誠にありがとうございました。この演奏会の実現のために有効に使わせていただきます。

# ♪プログラム♪

## 第1部(卒業生ステージ)

中世のフレスコ画

J. モリセイ

士官候補生

J. P. スーザ

Hootenanny Folk Festival for band

H. L. ワルターズ

第一組曲

G. ホルスト

## 第2部(現役生ステージ)

ブライアンの休日

内藤 淳一

3つのジャポニスム

真島 俊夫

想い麗し浄瑠璃姫の雫

樽屋 雅徳

エル・カミーノ・リアル

A. リード

J-POP メドレー

ディープ・パープル・メドレー

編曲：佐橋 俊彦

## 第3部(合同ステージ)

バッカスの行列

L. ドリーブ

エグモント序曲

L. V. ベートーヴェン

飛翔

樽屋 雅徳

## 曲目紹介

中世のフレスコ画

J.モリセイ

フレスコ画とは壁などの下地にしっくいを塗り、乾ききらないうちに水に溶かした顔料で描く、西洋絵画の技法の一つである。華々しく先陣を切るトランペットのファンファーレはまさに演奏会の開演にふさわしい。そして、その華やかさとは対照的に哀愁を滲ませた旋律を奏でる中間部より、中世からの長い年月を感じさせない、迫力のある、美しく繊細なフレスコ画を十分に表されている作品である。

士官候補生

J.P.スーザ

原題は「The High School Cadets」で、ワシントンの高校のドリルチームが依頼をして作曲をした委嘱作品である。高校生はこの作品を聴き、曲の素晴らしさに謝礼としてスーザに24ドルを支払ったという微笑ましいエピソードを持つ。そんなエピソードを感じさせるような暖かみのある曲であり、ファンファーレや明快で軽やかな曲調はこれぞマーチと思わせるような作品となっている。

Hootenanny Folk Festival for band

H.L. ワルターズ

Hootenanny(フータナニー)は「フォーク・シンガーが聴衆を参加させて行うコンサート」という意味を持ち、その意味通りにこの作品は前半のアンダンテ、後半のアレグロのどちらにおいてもどこか懐かしさを覚え、今にも身体を動かしたくなるような曲調となっている。ワルターズはスクールバンド向けの親しみやすい作品を多く発表しており、日本に来日した際に感じた印象をもとに「日本民謡組曲」なども発表している。

第一組曲

G.ホルスト

この作品は組曲「惑星」で知られる、G.ホルストの吹奏楽曲であり、第1楽章 Chaconne(シャコンヌ)、第2楽章 Intermezzo(インテルメッツォ/間奏曲)、第3楽章 March(マーチ/行進曲)の三楽章で構成されている。美しく重みのある低音から始まり、曲の主題を提示する第1楽章、軽やかで滑らかな第2楽章、そして迫力のある金管楽器と木管楽器のリズム調のメロディーにより華やかに前進していく第3楽章へと曲が続いていく。吹奏楽史にも残る、一度は耳にするであろう名曲である。

ブライアンの休日

内藤淳一

2008年全日本吹奏楽コンクール課題曲Ⅰになった作品である。明るく華やかなマーチで、作曲者は「架空の人物であるブライアンが、休日を心から楽しんでいる様子を描写している。」と述べている。「～の休日」と言えば、R・アンダーソンの名曲「トランペット吹きの休日」を想起する人も多いだろうが、全編にわたりオマージュのような部分を感じさせる。なんとと言ってもトランペットは休み無く吹き続けるので、最初から最後までお休

みは無く大活躍である。高校の教員であり、吹奏楽指導者、指揮者である作者は、教育的配慮を持ちながら魅力的で楽しいマーチを沢山作曲している。この作品も課題曲として優れているだけで無く、その魅力から取り上げられる事の多い作品である。

### 3つのジャポニスム

真島俊夫

故真島俊夫氏が2001年に東京佼成ウインドオーケストラの委嘱により作曲された。アメリカを代表する指揮者であるE・コーポロン氏によるノース・テキサス大学の録音にも取り上げられるなど、国内外を問わず人気の高い作品である。また、作曲家自身の編曲により管弦楽版も作られている。作品は第1楽章 鶴が舞う、第2楽章 雪の川、第3楽章 祭りで構成されている。第1楽章では雪の中で丹頂鶴が求愛のダンスを踊る場面が見事に描写されており、最も印象的なテーマが提示される楽章である。第2楽章では冬の張り詰めた寒さのなか、流れる川を繊細に表現している。そして第3楽章は熱狂的な祭りを表現し、青森のねぶた祭りに見られるリズムが使用されている。最後は第1楽章のテーマが再現され、圧倒的な迫力で曲を終える。全曲で18分の大曲だが、本日は各楽章をカットした短いヴァージョンで演奏する。

### 想い麗し浄瑠璃姫の雫

樽屋雅徳

この作品は近年和風作品を毎年発表している、樽屋雅徳氏の作品である。作曲のテーマとなっている物語は、鎌倉時代の源義経にまつわる伝説である。兄である源頼朝に追われる身となってしまった義経は、奥州藤原氏を頼って東北へ落ち延びた。その旅の途中で数多くの伝説が語り継がれているが、浄瑠璃姫の伝説もその一つである。三河国矢作に伝わる浄瑠璃姫の伝説は、落ち延びる義経と恋に落ちた浄瑠璃姫が蒲原宿で重い病にかかった義経を救うというもの。海辺にうち捨てられた義経のそばで、浄瑠璃姫が祈ると見事義経が息を吹き返す。しかし、危険な逃避行のため二人は涙ながらに別れ義経は先を急いだ。後日談として、義経が平泉で討たれたと知ると浄瑠璃姫がいてもたってもいられず陸奥へと旅立つ。そこで義経と感動の再会を果たすが、間もなく浄瑠璃姫は病で息を引き取る。義経はこの悲しみを胸に、津軽半島、蝦夷へと落ち延びるという物語である。全編にわたり和太鼓、締太鼓などの和楽器が活躍し、ピッコロは篠笛のように用いられている。樽屋作品に見られる吹奏楽的な格好の良さ、感動的な構成、そして魅力的なメロディー。数多くの学校が取り上げている秀作である。

### エル・カミーノ・レアル

A・リード

この作品は1984年米国空軍軍楽隊の委嘱で作曲された。作品には「ラテン・ファンタジー」と副題が付けられており、全編にわたってスペインの舞曲で構成されている。急-緩-急の三部構成の作品で、急の部分にはスペイン北東部に伝わる「ホタ」という3拍子の舞曲が使用されている。また緩ではスペイン南部の舞曲「ファンダンゴ」を素材にしており、最後は「ホタ」が再び演奏されて華々しく終わる。曲名の「エル・カミーノ・レアル」は「王の道」という意味だが、カルフォルニア州の国道101号線は「エル・カミーノ・レアル」と呼ばれる。これはスペイン支配下で宣教活動を行ったフランチェスコ派修道士が残した名称である。かつてはスペイン、独立してメキシコ、そしてアメリカへこの地を支配する国は次々と変わったが、今でもスペインの文化が見て取れる。

### バッカスの行列

L・ドリーブ

バレエ「シルヴィア」の第3幕で演奏される曲の1つ。「シルヴィア」は、レオ・ドリーブ作曲、ルイ・メラント振付による3幕5場のバレエ作品。原作はトルクアート・タツの「アミンタ」である。1876年6月14日、パリ・オペラ座で初演された。当時はそれほど有名にはならなかったが、1952年にフレデリック・アシュトンの振付で再演されて人気作品となった。冒頭はトランペットの元気なよいファンファーレで始まり、徐々に金管のハーモニーが加わり厚みを増す。ここは文句なしにカッコよく、その後は様々な登場人物が次々と現れるように、優美にまた快活にと曲想が変化する。

### エグmont序曲

L・V・ベートーヴェン

ゲーテの戯曲「エグmont」の付随音楽として作曲された中の序曲で、ベートーヴェンの数少ない序曲を代表する作品のひとつ。16世紀にスペインの支配下にあったオランダ民衆がエグmont伯爵を先頭に独立運動を起こすが、スペインに捕らえられて死刑の宣告をされてしまう。そこへ、同じく捕らえられて死刑にされた恋人が女神として現れ、エグmontを勇気付ける。これに影響を受けて「自分の死はムダにはならない」と意を決し刑場に向かうという悲劇の物語。クラシックのひとつの形である「苦しみから喜び」へのテーマが、とても分かりやすく表現された曲となっている。

### 飛翔

樽屋雅徳

この作品は2004年に不動岡高校開校120周年記念行事の一環として作曲委嘱されたものである。曲の形式は卒業式の入場等にふさわしい「グランドマーチ」の形式で、トリオと呼ばれる中間部には不動岡高校の校歌も使われているので注目して聴いて頂きたい。当時の方の尽力、そして代々不動岡高校吹奏楽部に所属されてきた先輩方の努力により受け継がれてきたこの曲は、これからも大切に守り続けなければならない作品である。